

〔訂正〕 2月16日付けて資料提供した次の資料に  
次のとおり修正がありました（5月11日修正）

〔訂正〕 2月16日付けて資料提供した次の資料に  
次のとおり修正がありました（2月16日修正）

## 資料提供

令和~~7~~8年2月16日  
課名：広報課  
担当者：清水  
内線：2370  
直通電話：082-513-2378

# 令和7年度広島県広報コンクールの審査結果について

市町の広報活動の充実を図るため、広島県が毎年、県内市町を対象に実施している広報コンクールの審査結果がまとまりました。

## 1 入賞団体及び作品（作品内容は別紙のとおり）

(1) 広報紙				
〔市 部〕				
◎最優秀賞	呉市	「 <u>市政だよりくれ</u> 」		8月号
◎優秀賞	安芸高田市	「 <u>広報あきたかた</u> 」		8月号
〔町 部〕				
最優秀賞	海田町	「 <u>広報かいた</u> 」		12月号
優秀賞	神石高原町	「 <u>広報神石高原</u> 」		8月号
(2) 写真				
〔一 枚〕				
◎最優秀賞	庄原市	「 <u>広報しょうばら</u> 」	表紙	8月号
優秀賞	府中市	「 <u>広報ふちゅう</u> 」	表紙	10月号
〔組 み〕				
◎最優秀賞	安芸高田市	「 <u>広報あきたかた</u> 」	4~5 ページ	10月号
優秀賞	三原市	「 <u>広報みはら</u> 」	表紙	12月号
(3) 映像				
◎最優秀賞	東広島市	「 <u>60秒で分かる! 実は簡単! 選挙のやり方【初めての選挙シリーズ】</u> 」		
優秀賞	広島市	「 <u>団地のシンボル スカイレール 26年の歴史に幕</u> 」		

※ ◎印の付いた作品を公益社団法人日本広報協会が主催する「令和8年全国広報コンクール」に推薦。

## 2 審査会 令和8年1月15日（木）

【審査員】 石田 伸二 (Studio iDaps)  
広江 佳名子 (フリーライター)  
高田 哲 (広島県広報課 クリエイティブ・ディレクター)  
清水 沙綾香 (広島県広報課 課長)

## 3 審査対象

令和7年1月から令和7年12月までの間に発行、発表された3媒体5部門の広報作品で、20市町から応募のあった45点。

## 4 表彰

入賞団体へ賞状を送付する。

入賞作品は、記者クラブに展示します。[展示期間：～2月24日（火）まで] 是非ご覧ください。

この審査結果は県のホームページ（トップ→県政情報→広報・広聴→広報課→令和7年度広島県広報コンクール）の審査結果について）でもご覧いただけます。

## 広報紙部門・市部

### 最優秀賞

## 呉市「市政だよりくれ」（令和7年8月号）



**動物たちのことを  
まず知ろう！**

**動物の生態と対策**

動物の生態と対策について、専門家から話を聞きました。動物の生態を知ることで、適切な対策がとれます。

**動物の生態**

動物の生態を知ることで、適切な対策がとれます。

**動物の対策**

動物の対策について、専門家から話を聞きました。

**動物の対策**

動物の対策について、専門家から話を聞きました。

**有害鳥獣を正しく知って  
効果的な対策を！**

有害鳥獣の生態と対策について、専門家から話を聞きました。

**有害鳥獣の生態**

有害鳥獣の生態を知ることで、適切な対策がとれます。

**有害鳥獣の対策**

有害鳥獣の対策について、専門家から話を聞きました。

鳥獣	43年度	44年度	45年度	46年度
イノシシ	3,751	4,505	2,854	2,451
シカ	140	155	220	265

■発行部数（年間発行回数）：92,000部（12回）

■担当課：総務部秘書広報課

■連絡先：0823-25-3236

#### 【担当者より（主な記事の掲載意図）】

近年問題となっている有害鳥獣への対策を周知する主旨で特集しました。呉市では、イノシシなどの農業被害に加え、サルが住宅地に出没し市民に危害を加えるなどの事例も発生しており、その被害はさまざま。今回の特集では、その対策を数々の動物と合わせて掲載することで、興味を引く紙面を目指しました。また、有害鳥獣対策の専門家に話を聞くことで、その対策の根拠を明確なものとし、実際に有害鳥獣対策を行っている農家の声も掲載。そして、最後にジビエの内容を設けることで、有害鳥獣を単なる問題として扱うのではなく、「地域の元気」にもなることなどを訴えました。担当課の農林水産課の意向も踏まえ、できるだけたくさんの情報、写真を織り込みました。

#### ＝講 評＝

##### 【表紙】

○キャッチコピーや柵だけの写真が目を引き、思わず読者がページを開くような仕掛けになっている。

##### 【特集】

- 今年は熊の出没など有害鳥獣問題が多発し人々の関心を引いているため、企画のテーマが良い。
- データや専門家の意見を多用し、被害の大きさや根拠・効果ある対策が具体的に紹介されている。
- 情報量が多いにも関わらず、見やすいレイアウトと配色になっている。
- 余白も十分に取っており、重要部分は付箋型の横書きでメリハリがつけてあり工夫が見られる。

優秀賞

安芸高田市「広報あきたかた」(令和7年8月号)



年次	出来事	出来事の内容
1925	1 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1927	7 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1928	3 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1928	8 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1928	11 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1928	12 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1929	12 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1930	14 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1931	16 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1932	17 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1933	18 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1934	19 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1935	20 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1936	21 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1937	22 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1938	23 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1939	24 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1940	25 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1941	26 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1942	27 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1943	28 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1944	29 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校
1945	30 開校	安芸高田高等小学校(現在の安芸高田高等学校)開校

- 発行部数(年間発行回数): 12,150部(12回)
- 担当課: 総務部秘書広報課
- 連絡先: 0826-42-5627

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

戦後80年という大きな節目に際し、戦争の実相を次世代へ伝えることを目的とした特集を企画した。誌面は、戦時下に市内で起きた出来事の紹介、学徒動員として当時を生きた市民へのインタビュー、小中学生の平和に対するメッセージ、戦争の実相を伝える書籍の紹介によって構成した。特に力を注いだ戦争経験者のインタビューでは、戦争を経験した語り手が少なくなる中、当事者の声として自らの言葉で語っていただけただことで、当時の様子がよりリアルに伝わる記事が作成できた。「今聞かなければ失われてしまう記憶」を丁寧に記録し、約80年前の貴重な戦争体験を市民に届けることで平和の尊さを訴えることが出来た誌面となった。また、市内で起きた戦時下の出来事を取り上げ、写真と地図で分かりやすく紹介した。個人の戦争体験と実際にこの地域で起きた出来事を織り交ぜ、併読させることで、本市にとっても戦争が決して遠い出来事ではなかったことを伝える構成とした。さらに、小中学生からの平和へのメッセージを加えることで、「過去を知り、現在を考え、未来の平和をいかにして築くか」という問いを誌面全体で表現し、「平和」を自分事として捉えるきっかけづくりとなるような記事となった。

= 講 評 =

【特集】

○年表、地図、歴史紀行を通じて、地域の過去を分かりやすくだっているのが良い。

○戦争体験者の話や、子どもたちの率直な声が載っており、他自治体より踏み込んだ深い内容となっている。

【全体】

○写真・イラストが多用してあり、読みやすく工夫してある。

# 広報紙部門・町部

## 最優秀賞

### 海田町『広報かいた』(令和7年12号)



- 発行部数(年間発行回数): 14,000部(12回)
- 担当課: 企画部かいたブランド課
- 連絡先: 082-823-9212

**【担当者より(主な記事の掲載意図)】**  
 メイン特集である「今をときめくまちのあの人に会いに行く」では、校舎建替を予定している海田東小学校の先生方を取材。「海田っ子の未来」や「教育現場の環境」の取材を行うことで、こどもたちを支える教育現場を町民にも知ってもらいたいと思い掲載。先生方の児童への思いに加え、教育現場のデジタル化も併せて掲載し、施策の進捗状況も発信する内容とした。

### ＝講評＝

#### 【表紙】

- 先生を取り上げているのが面白い。
- 先生たちの明るく親しみやすい表情が良い印象を与えている。

#### 【特集】

- 企画も丁寧に作り込まれ、先生方の子どもたちに向き合う姿勢が真摯に伝わってくる。
- デジタルツールの利点と課題を模索している様子がしっかりと伝わってくる。

#### 【全体】

- 写真やイラストを効果的に使い、行間やマーカーで読みやすく工夫されている。

優秀賞

神石高原町 『広報神石高原』(令和7年8月号)



- 発行部数（年間発行回数）：4,100部（12回）
- 担当課：政策企画課
- 連絡先：0847-89-3351

【担当者より（主な記事の掲載意図）】  
 戦後80年を迎える今、被爆体験を聞く機会が少なくなっているのが、町出身の方の実体験を次の世代に語り継ぐために掲載しました。

＝講評＝

【特集】

- 戦争体験者の素直な体験談が載っており良い。
- 読者が戦争への新しい気づきを得るような内容である。
- 【全体】
- オールカラーで写真・イラストを多用し、明るい雰囲気で見やすくまとめられている。

## 写真部門・一枚写真の部

### 最優秀賞

#### 庄原市『広報しょうばら』(令和7年8月号 表紙)



■担当課：行政管理課

■連絡先：0824-73-1159

#### 【担当者より（掲載意図）】

「第25回清流めぐり利き鮎会」で日本一に輝いた西城川の鮎を表紙に据えることで、特産品としてのPRを行うとともに、評価の背景にある物語を読み手に想起させたいと考え、取材を行いました。

稚鮎の放流、河川清掃、そして早朝から川に立つ釣り人たちといった、水辺の営みを広報紙として可視化することで「地域の誇りを地域自身が再発見する機会」を作りたいと考えています。

#### ＝講評＝

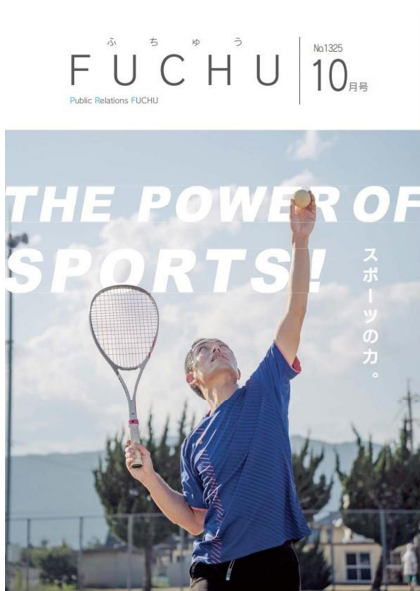
○鮎や人物が鮮明に写り、一瞬合成かと思うほどだった。

○写真とキャッチコピーがドラマチックで、鮎釣りの臨場感が伝わってくる。

○大自然の迫力と鮎釣りの躍動感が圧巻であり、自然豊かな庄原に行ってみたくなる一枚である。

### 優秀賞

#### 府中市『広報ふちゅう』(令和7年10月号 表紙)



■担当課：広報統計係

■連絡先：0847-44-9131

#### 【担当者より（掲載意図）】

より魅力的かつ印象的に上半身の駆動と鍛えられた筋肉を表現することにこだわり、サーブの瞬間を狙いました。キャッチフレーズと絡ませることで、特集ページへの導入としての役割を与えています。

撮影においては、より被写体を強調させるため背景をシンプルにしたかったので、下から撮影して中望遠で空を背景に捉えるよう工夫しています。被写体の輪郭が照らされるよう半逆光となる向きにも意識しながら、激しい動きに対応できるようにシャッタースピードを上げて連写で収めました。また、空のディティールは残したかったため、被写体の露出は現像で補正することを前提として、ヒストグラムで黒つぶれしないことを確認しながらRAWで暗めに撮影しています。

#### ＝講評＝

○イメージ通りに撮りたい写真を撮影できている。

○RAW現像も行い、クオリティーアップが図られている。

○スタイリッシュな写真と色味、デザインが特徴的である。

○空とコピーの配置、背景・フォントの色も人の動きを邪魔せず良い。

○背景のぼかし、主役の動作により、目を引き付けられる。

○薄い色の背景に白字なのがおしゃれである。

## 写真部門・組み写真の部

最優秀賞

安芸高田市『広報あきたかた』（令和7年10月号 4～5ページ）



■担当課：秘書広報課

■連絡先：0826-42-5627

【担当者より（掲載意図）】

10月号に掲載した組み写真は、大阪・関西万博で本市の神楽を披露した際の躍動の様子を複数の写真を組み合わせて表現した。今回の万博では、徳島の阿波踊りとのコラボレーションも行われ、日本の伝統芸能が交わることで生まれた新たな表現が万博のステージを彩った。

組み写真という手法を用い、舞手・踊り手の躍動感や力強さとそれに魅了される観客の一体感を表現した作品となった。

＝講 評＝

○表現、技術、レイアウトが圧巻の作品である。

○波のような写真配置やキャッチコピーの入れ方で、神楽の躍動感と迫力が伝わってくる。

○キャッチコピーやリード文の大きさ・配置のバランスが良い。

○人物の数、斜めの構図、キャプションの角度や文字の大きさが組み合わせさり、躍動感が強く伝わってくる。

優秀賞

三原市『広報みはら』（令和7年12月号表紙）



■担当課：広報戦略課

■連絡先：0848-67-6007

【担当者より（掲載意図）】

本号の表紙は、市が重点的に取り組む移住・定住施策の特集ページと連動しています。年末の帰省や親戚宅で過ごす際に手に取る読者へ、「三原での暮らしがいいな」と感じてもらうことを狙いとして撮影しました。

モデルとなったのは、三原市の中山間地域・久井町に移住してきた、スイス人の刀鍛冶とそのパートナーの女性です。めくってからも、特集の人物紹介に自然に入っていけるように、人物の配置や、雰囲気を含めるといったレイアウトの組み方を工夫しています。

＝講 評＝

○自然な表情とメリハリのある写真、レイアウトが魅力的である。

○三原での暮らしがイメージでき、「刀」のデザインに効果的に組み込まれている。

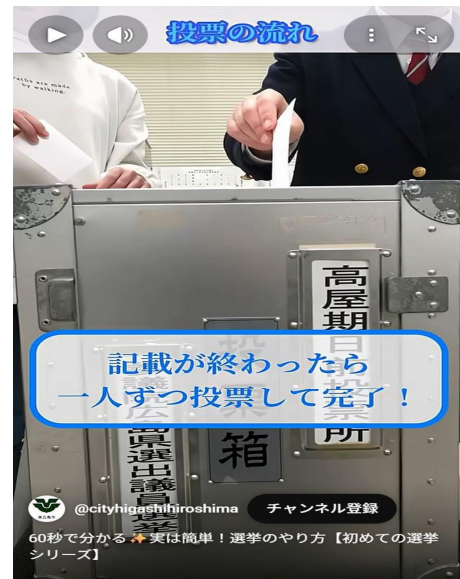
○背景処理やキャプションの工夫により、人を主役にした分かりやすい構成になっている。

○一目で「移住者」と分かる写真と表紙のデザインが斬新で特集ページも見たくなる。

## 映像部門

### 最優秀賞

## 東広島市「60秒で分かる ✨実は簡単！選挙のやり方【初めての選挙シリーズ」



- 放映方法：Youtube、Instagram、X、Facebook、市ホームページ、学生用チラシ
- 担当課：経営戦略チーム広報戦略担当 ■連絡先：082-420-0919

### 【作品のあらすじ】

初めて選挙に挑む高校生が、偶然再会した先輩に誘われ、期日前投票へ。戸惑いながらも質問を重ね、初めての選挙に臨む姿をリアルに描いた。投票までの流れや注意点、学生ならではの素直な感想を盛り込んだ、「初めての選挙」シリーズ。本動画は、高校生が選挙会場で受付から投票までの流れをリアルに体験する様子を撮影。注意点や手順を分かりやすく紹介することで、「初めての一票」に込められた不安と期待を表現した。

### 【担当者より（制作意図）】

本市では若年層（特に10～20代）の投票率が低下しており、投票行動への心理的ハードル（「投票の仕方が分からない」など）が大きな要因と考えられた。

全国的に、若者向けの投票方法解説動画が少なく、行政の目線から、若者の選挙への参加アプローチをする素材が無いことから制作に至った。

### ＝講 評＝

- 選挙の戸惑うポイントを丁寧に解説しており、実演しているため、大人にも役立つ内容になっているし、投票率のアップに期待できる。
- 高校生・大学生の素朴なリアクションとストーリー仕立てなのが親しみやすい。
- テンポ良く丁寧にまとまっているため、教材としても適用可能な映像である。
- 説明する男性の口調も聞き取りやすい。
- ぜひ「初めてシリーズ」の続編を作り、投票率アップにつなげていてもらいたい。

## 映像部門

優秀賞

### 広島市「団地のシンボル スカイレール 26年の歴史に幕」



■放映方法：安芸区役所ロビー設置モニターでの放映、市公式 YouTube での公開

■担当課：地域起こし推進課 ■連絡先：082-821-4904

#### 【作品のあらすじ】

安芸区のみどり坂団地で住民等に親しまれたスカイレールは、2024年4月30日に運行を終え、26年の歴史に幕を下ろした。団地内を走るスカイレールや最終便を見守る人々を映像に留めるとともに、運行終了前後の地域の様子を追いかけたドキュメンタリー。

#### 【担当者より（制作意図）】

安芸区では、まちづくり活動の基本方針の一つとして、ふれあいと文化の薫る交流のまちづくりを掲げ、歴史・文化資源の保存・活用・継承に取り組むとともに、住民が地域を愛する心を育み、交流できるまちづくりを進めている。安芸区の地域資源を映像化し、市公式 YouTube 等で周知することにより、安芸区の魅力を広く発信する。

#### ＝講 評＝

- 構成や視覚的効果が良く、誰が見ても分かりやすく編集されている。
- 地域の人々が多く登場し、素材収集と編集に多大な労力がかかっていることが伝わる。
- スカイレールと地域の繋がりが感動的に描写されている。
- 国内唯一の「スカイレール」乗っておけばよかったと後悔した。